

J Aあまくさ青壮年部活動報告

【熊本地震】

3JA（あまくさ・本渡五和・れいほく）で作る天草郡市農協青壮年部連絡協議会は、4月の熊本地震を受けて、被災され人手が不足している組合員の一日も早い復旧・復興に向けて支援活動に取り組みました。

5月11日の定期総会で支援活動を承認・可決。5月19日から6月16日まで毎週木曜日の5日間、延べ50名の部員で益城町や宇城市、菊陽町へ支援活動に出向きました。畦の草刈りや米の苗作り、家の中の片づけなど組合員の営農再開に尽力しました。



▼▲畦や農道の草刈りに励む部員（西原村）



▲きれいに刈り取りました



【新和支部 耕作放棄地での田植え】

J Aあまくさ青壮年部新和支部は6月25日、「耕作放棄地を有効に活用できないか？」と部員自らが考え、耕作放棄地70坪で田植えを行いました。当日は部員13名が参加し、雨が降る中で、田植えや草刈り、電柵張りに分かれたの作業となり、一生懸命に取り組みました。部員が肥培管理や水の管理をし、10月に稲刈りを行い、収穫した米は販売して部会運営費に活用する予定です。



▲耕作放棄地を耕し田植えする部員

【買い物客に配布しPR 地産地消に向けて】

天草郡市農協青壮年部連絡協議会と同郡市JA女性組織協議会は8月19日、一般消費者に米の消費拡大を呼びかけようと、合同で「新米キャンペーン」を行いました。

天草産新米コシヒカリ200袋（1袋2合）を用意し、3JA（あまくさ・本渡五和・れいほく）同時に「天草とれたて市場」「グリーントップ本渡」「Aコープ苓北店」で買い物客に配布しました。またJAあまくさは一昨年から開始した「米の産地直送便」のチラシも同時に配布し、消費拡大を呼びかけました。

参加した部員が「天草のおいしい新米です。どうぞ召し上がり下さい」と買い物客一人一人に声を掛けて配布すると、買い物客は「うれしい。ありがたいございます」と笑顔で受け取りました。部員は「イベントを通して、米の消費拡大につなげたい。また天草産の米を食べる事が本場の地産地消につながるのだから、ぜひ食べてもらいたい」と話しました。同日に「ゴミのポイ捨て」禁止に関するチラシも配布し協力を呼びかけました。



▲新米を配布する部員